

希望へ橋渡しする人

井上ひさし展

没後10年



井上
ひさし
生誕
100年
記念
展覧会

井上
ひさし

2020年10月10日(土)～12月6日(日) 世田谷文学館

開館時間／10:00～18:00(展覧会入場、ミュージアムショップは17:30まで) 休館日／毎週月曜日(ただし11月23日は開館、翌日休館)

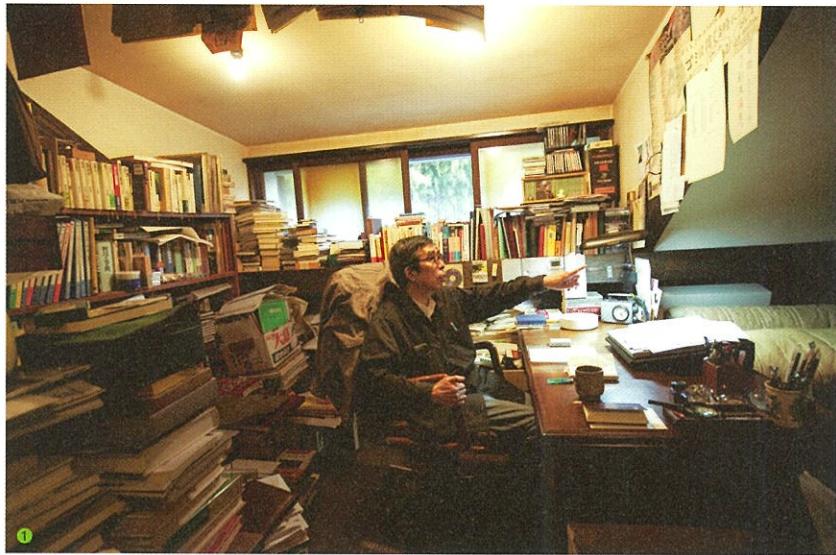
観覧料／一般800(640)円 65歳以上・高校・大学生600(480)円 小・中学生300(240)円、障害者手帳をお持ちの方400(320)円 ※()内は20名以上の団体料金

主催／公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館 特別協力／井上事務所 協力／こまつ座、仙台文学館、逕筆文庫、市川市文学ミュージアム、鎌倉文学館 後援／世田谷区 世田谷区教育委員会

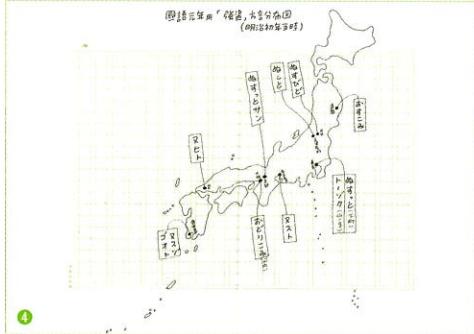
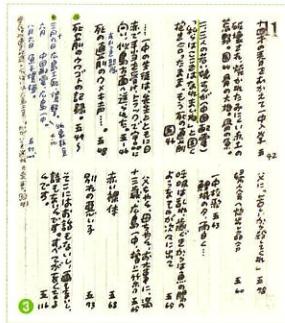
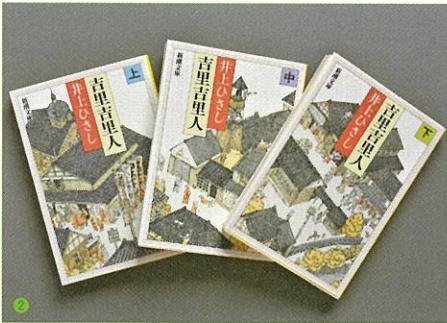
世田谷文学館 157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10(京王線「芦花公園」駅から徒歩5分) TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120 https://www.setabun.or.jp

没後10年 井上ひさし展—希望へ橋渡しする人

2020年10月10日(土)～12月6日(日) 世田谷文学館



井上ひさし(いのうえ・ひさし) | 1934年山形県生まれ。本名は度。上智大学外国语学部フランス語学科卒業。ストリップ劇場『浅草』の文芸部員兼進行係を経て、1969年、劇団テアトル・エコーに書き下ろした『日本人のへそ』で演劇界デビュー。1970年、長編書き下ろし『ブンとフン』で小説家デビュー。1972年、江戸の戯作者群像を描いた『手鏡心中』で直木賞、「道元の冒険」で岸田戯曲賞ほかを受賞。以降、戯曲、小説、エッセイ、批評など多才な活動を続ける。1984年、こまつ座を旗揚げ。旗揚げ公演の『頭痛肩こり樋口一葉』以降、2009年の『組曲虐殺』まで、こまつ座のために共作を含めて25作品を執筆。2010年75歳で死去。



①井上ひさし 撮影:川口賢典 写真提供:月刊「ゲート」②『吉里吉里人』(新潮文庫) 第2回日本SF大賞を受賞した長編小説。③『父と暮せば』書き抜き帳 原爆投下から3年後の広島を舞台とする本作執筆にあたり、多くの被爆者の手記を読み、ノートに書き写した。④『国語元年』『強盗』方言分布図(仙台文学館所蔵)作中ではさまざまな方言が使用されている。⑤『頭痛肩こり樋口一葉』ポスター(仙台文学館所蔵)1984年、こまつ座旗揚げ公演として上演された。

井上ひさし(1934-2010)の紡ぎ出した劇作・小説・ことばから、私たちはどれほど日本語の豊かさを教えられたことでしょう。また、その明るく闊達な笑いを通して、どれほど多くの人生と世界をめぐる問題に気づかされたことでしょう。

井上ひさし最後の戯曲『組曲虐殺』(2009)は、プロレタリア作家・小林多喜二を描いた評伝劇であると同時に、活動家であった井上の父親の影も重ね、また後年、社会的発言も積極的に行なった井上自身の強い想いが込められた作品です。

「絶望するには、いい人が多すぎる。希望を持つには、悪いやつが多すぎる。」という劇中の多喜二の名セリフがありますが、このあとに、実は次のこたばが続きます。

絶望から希望へ橋渡しをする人がいないものだろうか……
いや、いないことはない。

「橋渡しをする」その人こそ、井上ひさしだったのではないか。『絶望』的な状況の中でも、ほんの少しだけ上を向いてみようと思わせる、まさに「希望」へと誘う「やさしく、ふかく、おもしろい」井上ひさしのことばを、没後10年を経た今だからこそ私たちが求めていることを、本展をとおして、あらためて確かめていきたいと思います。

なお、本展は、短期間ではありますが世田谷にも暮らした井上ひさしを顕彰し、当館の開館25周年という記念の年に開催する待望の展覧会です。

井上ひさし展-2020- スタンプラリー

東北3館と関東3館開催の企画展をめぐるスタンプラリー。3館以上まわって井上ひさしが特注していた原稿用紙をもらおう!!

お問い合わせ:井上ひさし展2020スタンプラリー特設サイト

URL <https://stamp.inouehisashi.jp/>

同時期開催コレクション展

「一綴じられた時間の物語—ムットーニのからくり文学館」
～2021年3月31日(水)

*事前の日時予約が必要です。
当館公式HP(<http://www.setabun.or.jp>)からご予約ください。

次回企画展

第39回 世田谷の書展

2021年1月5日(火)～11日(月・祝)

あしたのために あしたのジョー!展

2021年1月16日(土)～3月31日(水)

- ・京王線
芦花公園駅南口から徒歩5分
- ・小田急線
千歳船橋駅から京王バス(歳23系統)千歳烏山駅行「芦花恒春園」下車徒歩5分

世田谷文学館
157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
(京王線「芦花公園」駅から徒歩5分)
TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120
www.setabun.or.jp



当館では新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、換気を含めて衛生管理を徹底させ、会場運営を行っています。お客様におかれましては、次のことをご協力をお願いいたします。

- ・37.5℃以上の発熱がある方は入館をお断りします。(入館時に検温させていただきます)
- ・ご入場の際はマスク(もしくはそれに代わるもの)をご着用ください。
- ・咳、咽頭痛等、風邪のような症状がある方、体調がすぐれない方はご来館をお控えください。
- ・感染症対策のため、お客様の個人情報を必要に応じて保健所等の公的機関に提供する場合がございます。
- ・クローケサービスはありません。大きなお荷物でのご入場はご遠慮ください。(ベビーカー置き場はあります)
- ・駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いいたします。
- ・その他、注意事項の追加・更新がございますのでご来館前に必ず文学館HPをご確認ください。